



同社が手掛けたゴルフ場内の木造倉庫

## ウッドフレンス

# 中規模木造建築の専門部署設置

## グループ生産の集成材ほか活用

ウッドフレンスを名古屋市長、林知秀社長は、6月1日付で中規模木造建築の専門部署「デベロッパ：都市木造事業部」を立ち上げた。平屋から3階建て、延べ床面積1000平方メートル以下の非住宅木造物件の受注獲得を想定している。土地の提供、構造・意匠設計、グループ工場で生産する住宅部材である集成材ほかの供給、プレカット、建て方にワンストップ対応することでコスト削減を図り、プレカット工場など競合との差別化につなげる。既に自治体やゼネコン、設計事務所ほかにもアプローチしており、2025年5月期には5億円の売り上げを目指す。

同社は、戸供給している。子会（郡）ほかで集成材や木造戸建て 社・フォレストノート リジナル建材の生産、住宅を年間（同、池田豪社長）はプレカット加工などを約1000 岐阜工場（岐阜県養老）手掛けており、集成材

や建材は自社住宅で使用するほか社外にも販売。現在は、岐阜県美濃加茂市と八百津町にまたがる用地（約6万5000平方メートル）で来秋稼働を予定する製材工場の建設を進めている。

非住宅木造物件については、18年に住宅用105㎡角集成材を使って最長15メートルを実現しながら意匠性にも配慮した独自の「挟みトラス」を開発。19年には、岐阜県高山市に国産杉・松を活用した木造一部鉄骨造りの3階建てホテルを建築したこともある。

こうした経営資源を活用し、中規模木造建築を中・長期視点で収益の柱のひとつにする

べく立ち上げた同部は林社長が部長を兼務し、スタッフは10人。既にグループが運営するゴルフ場内の倉庫、愛知県内の2階建ての事務所兼倉庫、平屋建

て事務所ほかで実績があり、今期中には愛知県内で民間（事務所、老人介護施設）、公共（倉庫兼事務所）で複数物件の受注が決まっ

ている。トラスを組むことで10メートルの無柱空間が可能で、一般材を使用することで同一規模ならS造に對して価格競争力があること（倉庫は坪単価36万7000円から）をアピールしている。

ウッドフレンスの住宅はグループ工場のある岐阜県産材をはじめとする国産材を積極的に使用しており、フォレストノートでは東海3県の県産材認証登録（あいち証明材、ぎふ証明材、三重の木）を済ませている。このため、民間物件だけでなく地域産材の使用が求められることが多い公共物件にも対応が可能だという。